



リベラル群馬、津久井副知事に新型コロナ対策を提言。

リベラル群馬、令名の会派合同で
台風19号被災地復旧状況を調査(嬭恋村)

群馬県議会リベラル群馬

街頭演説
3500日

後藤かつみ

2020年 第2回定例会報告

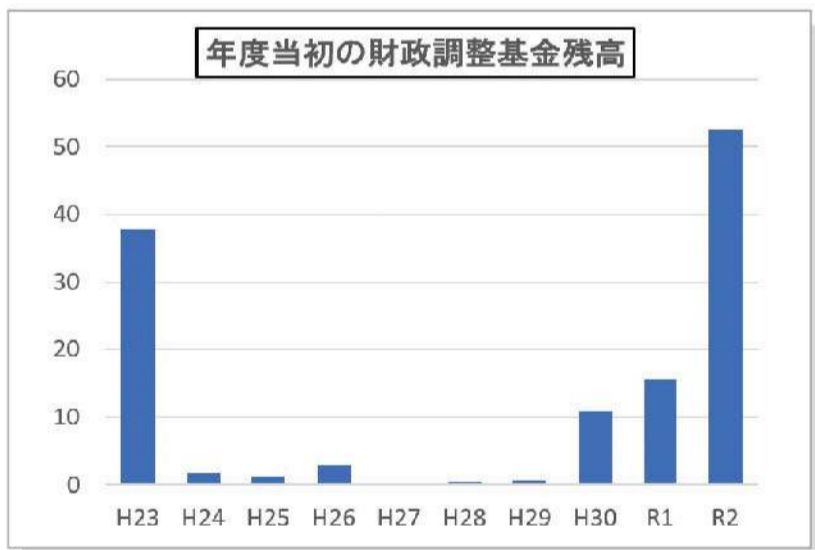
CONTENTS

- I 不測の危機に「財政健全化」が功を奏す
- II 前例に無い感染症危機に、前例に無い対応で臨む
～県議会の総意で予算「組み替え」を提言～
- III 「コロナ」と向き合う産業政策の方向性
～カンフル剤から体質改善へ～

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町 800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com

<http://www.ccrgoto.com/>
<http://www.eaglesgoto.com/>
(スマートフォン用)

不測の危機に「財政健全化」が功を奏す



貯金ゼロ状態で年度がスタートした年が続いていたことが分かる。

まさには備えあれば憂いなし
～財政調整基金が奏功～

自治体にとって「貯金」にあたる「財政調整基金」。今回の新型コロナウイルス危機に際し、この基金が潤沢にある東京のような自治体とそうでない自治体とで、独自の対策に大きな差が出ていることが報道等でも盛んに取り上げられたことは記憶に新しいと思います。

つまり、災害や今回の感染症危機など、「不測」の事態が起きた際の「備え」として、財政調整基金は極めて重要な役割を担います。

しかし、大澤県政時代、この財政調整基金が年度当初で「ほぼゼロ」状態が続いており(図)、リベラル群馬は予算議会の度に、このことを厳しく指摘してきました。

山本県政になり、知事は早速に財政健全化に着手。結果、令和2年度当初では52億円の財政調整基金を確保しました。これが功を奏し、早期の段階で対策を講じられたことは、評価すべき事です。

3月時点で講じたコロナ対策

- PCR検査機器の増設
- 帰国者・接触者外来の体制整備
- 「発熱外来」の新規設置
- 受入れ病床の確保
- 人工心肺装置等の医療機器購入の補助
- 協力医療機関の設備購入(防護服、簡易ベッドなど)
- 医療・福祉機関等へのマスク、消毒液等の供給

その後、群馬県でも医療・福祉施設等での集団感染をはじめ、急速な感染拡大が起きました。大きな混乱なく検査・治療体制を整えることができたのは、「国の指示待ち」でなく、県独自にできることはやるという姿勢で臨んだ結果であると思います。

国では、前例に無い感染症危機を受け、対策や地方への指示も二転三転する状況が続いていました。

一方、群馬県では、3月7日に初の感染者が発生し、拡大の兆しもあったことから、2月定例会議の会期を3月末まで延長し、前述した財政調整基金等を活用した補正予算を成立させ、事態の悪化を先取りした県独自の対策に着手することができました。

国が迷走する中、3月段階から独自対策に着手

基金1兆円取り崩し

本県は24億5000万円
コロナで42都道府県

「財政調整基金」は、自治体の財政運営に不可欠な「貯金」にあたる。今回の新型コロナウイルス危機に際し、この基金が潤沢にある自治体とそうでない自治体とで、独自の対策に大きな差が出ていることが報道等でも盛んに取り上げられたことは記憶に新しい。

つまり、災害や今回の感染症危機など、「不測」の事態が起きた際の「備え」として、財政調整基金は極めて重要な役割を担います。

しかし、大澤県政時代、この財政調整基金が年度当初で「ほぼゼロ」状態が続いており(図)、リベラル群馬は予算議会の度に、このことを厳しく指摘してきました。

山本県政になり、知事は早速に財政健全化に着手。結果、令和2年度当初では52億円の財政調整基金を確保しました。これが功を奏し、早期の段階で対策を講じられたことは、評価すべき事です。